

10月29日に「科学の甲子園～みやぎチャレンジ 2022～」が行われました。仙台一高からはAチーム2年生8人、Bチーム1年生8人が出場しました。物理・化学・生物・地学の課題研究を行う事前課題、物理・化学・生物・地学・数学・情報の6教科の総合得点で競う筆記競技とループのあるレールを作り競技する実技競技で他校と競いました。

## 祝！総合2位！

小林祐一郎、安田佑真、遠藤柑奈、佐々木桜子、阿部稜、佐竹寛美、塩田嶺、高山カリムの2年生8名は仙台一高Aチームとして出場し、総合2位という結果でした。1位を逃し悔しいところがあるものの、実りのある良い経験となりました。



チーム名		仙台第一高等学校A								
事前課題	項目	物理	化学	生物	地学	合計	順位			
	満点	40	40	40	40	160		9		
	平均点	33.9	25.5	22.1	24.2	105.7				
得点	39	23	18	30	110					
筆記競技	問題	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	第6問	合計	順位	
	満点	30	30	30	30	30	30	180		2
	平均点	7.5	14.8	18.0	8.4	9.7	8.7	62.1		
得点	19	20	25	22	18	4	108			

実技競技	項目	実技	順位	
	満点	120		4
	平均点	72.1		
得点	85			
総合得点		順位		
満点	460	2		
平均点	244.8			
得点	303			



本当にこの3カ月楽しかったです。優勝を逃したのは悔しいですが、それ以上に仲間と真剣に取り組めてとても充実してました。最高の思い出をありがとうございました。（阿部稜）

筆記試験で話合えるのは新鮮で楽しかった。（遠藤柑奈）

みんなと話し合っただけで、自分一人では考えつかないような発想が生まれ、とても面白かったし、勉強になった。（佐々木桜子）

ただただ楽しかったです。結果は残念だったけれど、良い経験になりました。事前課題も筆記競技、実技競技も全部充実してました。これも最後まで一緒に戦ってくれたチームメイトのおかげです。ありがとうございました。（安田佑真）

自分だけでは知識不足で不安だったが、チームメイトと協力して実験を行ったことでたくさんの発見があった大会だった。（佐竹寛美）

余裕面していた二華をぶちのめした時の快感は忘れません。とにかく楽しいのと必ずしも勉強が必要は無いので、77には積極的に参加してもらって来年こそ優勝してほしいです！（高山カリム）

事前課題から実技まで、みんなと支えあうことができ、普段の試験などでは経験できない貴重な体験をした。総じていい大会になった。（塩田嶺）

計3カ月かかった大会でした。特に本番当日の実技競技のドキドキ感は最高でした。チームを組んで勉強で勝負することは部活とは違った楽しさがありました。最高の宝物です。（小林祐一郎）



## ●一年生

### メンバー

◎豊岡 凌 ○入野 拳樹 ○佐藤 常照 ○佐藤 高途  
○土佐 健士郎 ○滑澤 快 ○櫻井 橙亜 ○中嶋 みのり

### 感想とアドバイス

○筆記試験はとても難しく、物化生地（物理，化学，生物，地学）のすべてをある程度理解していないと太刀打ちできない難易度だった。特に地学は計算量がとても多く、かなりの知識も問われるため、かなりの勉強が必要である。一年生は自習でカバーするしかない。

○数学や情報もかなり深いところまで聞かれ、試験時間内で問題を理解し、対応することが重要であった。試験時間は一時間ととても短く、全員がコミュニケーションをとり、解けそうな問題から手を付けなければならなかった。時間内にすべての問題を解くのはかなり難しいことであると思う。（特に一年）

○実技試験は実験を行う試験で、今回は物理の実験であった。問題のルールが緩く、制限が少なかったため、より柔軟な発想が求められた。各チームが全く違う発想で作成していて、他のチームから多くのインスピレーションを受けた。

○実技試験で重要だったのはいかに誤差を小さくできるかであったと思う。どれだけうまくいった時があったとしても、それが100回に1回しか再現できなければ、結局本番は運任せになってしまう。ギリギリまで考察を行い、「たまたまうまくいった」ではなく、「うまくいくのが必然」を目指さなければ勝つことはできないと感じた。

○開会式から閉会式まで5時間越えの長丁場であったため、最後まで集中を切らさないことも重要であった。



(筆記試験)



(実技試験)

※どちらもチームメイトと相談可